

# 正誤表 (1 / 1)

誤 (設計要領 第一集 舗装保全編 令和2年7月版)

正 (設計要領 第一集 舗装保全編 令和2年7月版)

## 3-5-3 高機能舗装用混合物の配合設計

## 3-5-3 高機能舗装用混合物の配合設計

### (1) 混合物の諸基準

#### ① 配合粒度とアスファルト種別の組合せ

高機能舗装用混合物については、使用する地域区分・交通条件に最も適した配合粒度とアスファルト種別の組合せを選定する。

#### ② 骨材の粒度

高機能舗装用混合物に使用する骨材の配合設計粒度は、表3-26に示す粒度範囲を標準とする。なお、使用する骨材の密度が0.2 g/cm<sup>3</sup>以上異なる場合には配合比の修正を必要とする。

表 3-26 高機能舗装用混合物の配合設計標準粒度範囲

ふるい目の 開き(mm)	ふるい通過質量百分率(%)			
	高機能舗装 I 型用混合物		高機能舗装 II 型用混合物	
	最大粒径 13mm		最大粒径 20mm (目標空隙率 20%)	最大粒径 13mm
	一般地域用 (目標空隙率 20%)	積雪寒冷地域用 (目標空隙率 17%)		
26.5	—	—	100	
19.0	100	100	95~100	100
13.2	92~100	92~100	53~78	95~100
9.5	62~81	62~85	35~62	
4.75	10~31	14~35	10~31	30~38
2.36	10~21	14~25	10~21	22~27
0.6	4~17	6~19	4~17	17~21
0.3	3~12	5~14	3~12	15~18
0.15	3~8	4~9	3~8	10~13
0.075	2~7	2~7	2~7	9~11

#### ③ 使用アスファルト

高機能舗装用混合物に使用するアスファルトは、高粘度改質アスファルト及び改質アスファルトを原則とする。

#### ④ 配合試験基準値

高機能舗装用混合物は、本編3-4-3「混合物の諸基準」(2)によって配合試験した時、表3-27または、表3-28に示す基準値の範囲に入らなければならない。

表3-27 高機能舗装 I 型用混合物の配合試験基準値

項目	一般地域用	積雪寒冷地域用
マーシャル安定度 kN	5 以上	
目標空隙率 %	20 程度	
水浸マーシャル残留安定度 60℃ 48 時間 %	75 以上	17 程度 <sup>注)</sup>
カンタプロ損失量 %	20 以下 (供試体温度 20℃)	

注) 使用する骨材によっては、17%以上の空隙率であってもカンタプロ損失量などの配合基準を満足することもあるため、積雪寒冷地域の配合試験にあたっては注意しなければならない。

3-27

### (1) 混合物の諸基準

#### ① 配合粒度とアスファルト種別の組合せ

高機能舗装用混合物については、使用する地域区分・交通条件に最も適した配合粒度とアスファルト種別の組合せを選定する。

#### ② 骨材の粒度

高機能舗装用混合物に使用する骨材の配合設計粒度は、表3-26に示す粒度範囲を標準とする。なお、使用する骨材の密度が0.2 g/cm<sup>3</sup>以上異なる場合には配合比の修正を必要とする。

表 3-26 高機能舗装用混合物の配合設計標準粒度範囲

ふるい目の 開き(mm)	ふるい通過質量百分率(%)			
	高機能舗装 I 型用混合物		高機能舗装 II 型用混合物	
	最大粒径 13mm		最大粒径 20mm (目標空隙率 20%)	最大粒径 13mm
	一般地域用 (目標空隙率 20%)	積雪寒冷地域用 (目標空隙率 17%)		
26.5	—	—	100	
19.0	100	100	95~100	100
13.2	92~100	92~100	53~78	95~100
9.5	62~81	62~85	35~62	
4.75	10~31	14~35	10~31	30~38
2.36	10~21	14~25	10~21	22~27
0.6	4~17	6~19	4~17	17~21
0.3	3~12	5~14	3~12	15~18
0.15	3~8	4~9	3~8	10~13
0.075	2~7	2~7	2~7	9~11

#### ③ 使用アスファルト

高機能舗装用混合物に使用するアスファルトは、高粘度改質アスファルト及び改質アスファルトを原則とする。

#### ④ 配合試験基準値

高機能舗装用混合物は、本編3-4-3「混合物の諸基準」(2)によって配合試験した時、表3-27または、表3-28に示す基準値の範囲に入らなければならない。

表3-27 高機能舗装 I 型用混合物の配合試験基準値

項目	一般地域用	積雪寒冷地域用
マーシャル安定度 kN	5 以上	
目標空隙率 %	20 程度	17 程度 <sup>注)</sup>
水浸マーシャル残留安定度 60℃ 48 時間 %	75 以上	
カンタプロ損失量 %	20 以下 (供試体温度 20℃)	

注) 使用する骨材によっては、17%以上の空隙率であってもカンタプロ損失量などの配合基準を満足することもあるため、積雪寒冷地域の配合試験にあたっては注意しなければならない。

3-27